

## 令和4年度第1回春日井市地域包括ケア推進協議会議事録

1 開催日時 令和4年10月21日（金）午後2時から午後3時30分まで

2 開催場所 市役所 第3委員会室

3 出席者

【会 長】	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	三浦 久幸
【委 員】	春日井市医師会	前田 誠司
	春日井市歯科医師会	川口 剛
	春日井市薬剤師会	林 きよみ
	春日井保健所	増井 恒夫
	愛知県認知症疾患医療センター	柴山 漢人
	春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会	若月 剛治
	春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会	大野 哲嗣
	地域福祉アドバイザー	南部 哲男
	春日井市民生委員児童委員協議会	落合 逸男
	春日井市社会福祉協議会	大塚 淳弘
【欠 席】	中部大学	白石 知子
	春日井市民病院	成瀬 友彦
【事務局】	地域福祉課	課長 長坂 匡哲
	地域包括ケア推進室	室長 山崎 俊介
		主査 梶原 綾
		主任 川島 美保香
	在宅医療・介護サポートセンター	佐藤 和子
	健康増進課	課長 神戸 洋史

【傍聴者】 1名

4 議題

(1) 令和4年度春日井市地域包括ケア推進状況報告

ア 在宅医療と介護の連携について

イ 認知症総合支援について

ウ 生活支援体制整備について

エ 介護予防について

(2) その他

## 5 配付資料

【資料】春日井市地域包括ケア推進状況報告

## 6 議事内容

議事に先立ち、委嘱状を交付し会長の選出及び職務代理者の指名を行った。また、会議は公開で行うとともに議事録は要点筆記とし、各委員が確認手続きを行った上、会長及び会長が指名する者が署名することを確認した。

### (1) 令和4年度春日井市地域包括ケア推進状況報告について

【梶原主査】議題1について説明

【林 委員】薬剤師会でも11月26日に多職種連携研修の開催を予定している。

【柴山委員】WHOのホームページに死因のトップ10が掲載されており、先進国において1位は心疾患、2位はアルツハイマー型等の認知症となっている。

2000年には8位くらいだったが、2019年には2位に上がってきており、認知症が増えている。2019年6月に出された認知症施策推進大綱では共生と予防について強調されており、それに沿って春日井市でも取り組んでいるが、本人や家族の視点を重要視した取り組みや若年性認知症の方の居場所づくりについて考えてほしい。

認知症予防については、慶応義塾大学とソフトバンクなどが協働して、電話や診察で話すだけで認知症が分かる、例えば相手の話し方、声のトーン、話の間などで判定し、早期に医療機関につなげるという取り組みがある。

認知症施策に関する専門家の懇談会では、かかりつけ医の重要性が強調されている。かかりつけ医はゲートキーパーでもあり、ゴールキーパーでもある。認知症だけでなく全身管理を含め、かかりつけ医の役割が重要になってくる。

【三浦会長】本人及び家族の視点の取り組みとして、昨年は愛知県認知症希望大使に来ていただいて交流会を行ったが、引き続き本人・ご家族への視点を入れた取り組みは継続して行ってほしい。認知症カフェなど若年性認知症に特化した居場所はないか。

【山崎室長】春日井市の認知症カフェは、性質が他市とは異なっており、喫茶店の人達が認知症について理解することで、日頃通いなれた喫茶店に認知症になっても通い続けられるよう居場所を確保するものであり、認知症について高い専門性を持っているわけではない。若年性認知症は、進行の経過に合わせ、まずは職場で配慮いただき、業務内容を調整して働き続けることが最優先であり、症状が進行して業務継続が困難になった段階で、障がい福祉サービスの就労継続支援B型事業所などを利用することもあとと認識している。他の自治体と同様に、春日井市では居場所づくりを含め若年性認知症の施策自体の

取り組みがあまり進んでおらず、引き続き、他市の取り組みなどを参考にしてい

【三浦会長】 認知症の人と家族の会が、若年性認知症の方を対象に「元気かい」を作っているが、年齢を重ね、症状が進むと継続が難しいとも聞いているので、春日井市でも取り組んでほしい。

【前田委員】 物忘れが気になると受診されるケースはあるが、専門外来を紹介すると躊躇されてしまうことが多い。また、本人ではなく家族が相談される場合もある。専門外来を受診することになっても、本人と家族が同席する必要があるが、双方の日程がなかなか合わないこともあるので、説得しながら対応するしかないと思っている。

医師会員の中でも認知症に詳しい人とそうでない人がいるため、かかりつけ医が認知症の兆候に気づけるよう、勉強の機会を設けていきたい。

【増井委員】 普段は健康でもコロナに罹患し在宅療養中に状態が悪くなった場合は往診を希望する人が多い。保健所でも医療調整はするものの、そのような時にすぐに往診してもらえる医療機関があるとありがたい。慢性疾患等での在宅診療ではなく、このような場合に往診してもらえるような仕組みがあるのであれば保健所に教えてほしい。

【神戸課長】 コロナも含めての話だが、在宅診療については医師会と協力しながら実施している。今後のウィズコロナへの対応として在宅診療やオンライン診療などについても進めていけるよう、医師会等と調整していきたい。保健所にもご協力いただきたい。

【三浦会長】 第7波で在宅療養者が増えて、保健所としては対応に苦慮したのではないか。どこに問い合わせすれば往診してもらえるのかが分かればありがたいと思う。

大野委員、日頃の業務やコロナ禍で、どのような困りごとがあるか。

【大野委員】 認知症の独居の方が認知症の自覚がないと、受診につなぐことができず困難を感じる。

また、利用者がコロナに感染した場合は、介護サービスが限定されたり、中止したりしてしまうことがあった。

【三浦会長】 春日井市では人生会議を推進しているが、施設入所者において最終段階の意向確認は進んでいるか。

【若月委員】 施設によって取り組みの差はあるが、取り組みやすくなってきている。私の勤務する施設では入所の段階で話している。自然な最期を希望する方が増えてきているように感じている。

【林 委員】 薬局ではなかなか患者中心の利用が少ないので、かすがいねっと連絡帳の登録をする必要性を感じ難いかもしれない。登録についての説明会もコロナ対応に忙殺され開催できなかったが、歯科医師会が実施したうように、薬剤師会でも実施したい。

治療薬のラゲブリオが医療機関で円滑に処方できるように、どの薬局に在庫がどのくらいあるのかをかすがいねっと連絡帳に毎日掲載した。これは他市ではやっていない試みで、医師からはラゲブリオでの治療が進んだと非常に喜ばれ、薬局間の連携も進んだ。

【神戸課長】 薬剤師会では、市と連携してコロナ感染者の自宅療養者へ感染対策用品を自宅に届ける事業を行っていただいた。また、休日夜間診療所での薬が不足した場合も対応いただいた。

【南部委員】 人生会議の出前講座の対象は。また、人生会議は市民にどの程度認知されてきたのか。

【山崎室長】 出前講座の対象については、制限はなく依頼があれば出かけている。コロナ禍であったこともあり依頼数は増えていない。

人生会議の認知については、現在、改定を進めている高齢者総合福祉計画のアンケート調査の設問項目に入れており、前回と比較したい。

【柴山委員】 認知症の市民シンポジウムについては、150人程度の参加があった。講師の変更があったが講師自身の体験談もあり好評であった。

【大塚委員】 コロナが収束したら住民主体活動を開始したいと考えていたが、やっとなんか動かし出してきてはいるものの、生活全体の支援を担っていくまでには至っていない。こども食堂の目的が、今までのような貧困対策から地域のつながりを作るといった形に変化しつつある。

【落合委員】 民生委員は今年12月が改選となるが、なかなか担い手がない。民生委員の業務は福祉に関するものであり、重たいというイメージがある。地域のことをあまり知らないし、期待される業務ができないと考える人もいる。地域の実情把握に関する調査や日頃の支援もある。昔は方面委員という名誉職のようなもので受けてもらえたが、今は後継者を見つけることが難しく、担い手探しを市にお願いしている。

【南部委員】 民生委員だけでは大変なため、民生委員と一緒に住民主体サービスとして見守りをやっていると始めている。このような機運が高まっているのはいい傾向である。

住民主体サービスの担い手については、今は65歳まで働いている人が多く、担い手になりづらい状況である。80歳代で元気に担い手のリーダーとして活躍している人もいるが、コロナや病気などで体を壊してしまい、せっかくのサロンが急速に衰退してしまう現状もある。そのようなことがないように、60歳代の人たちが得意なものを活かして持ち寄るような形で、活動を担っていけないかと考えている。

【川口委員】 オーラルフレイルの認知度がやっとなんか進んできている。診療報酬の中に、口腔機能向上が評価されるようになったが、なかなか会員全員への広がりはまだまだであるため、会を挙げて取り組んでいきたい。

【三浦会長】 介護予防と保健事業の一体的実施について、アンケートを実施したようだが結果はいつ頃出るのか。

- 【神戸課長】 8月中旬に発送し、高齢者への質問項目からのハイリスク者76名、296名に配付したところ、63%の返信があり、その人に電話した。歯科受診や誤嚥予防プログラムにつながっていない人をフォローアップすることにしてはいるが、9割くらいの方が歯科受診や誤嚥予防プログラムを受けている。この事業でオーラルフレイルに取り組んでいる自治体は多くなく、3月頃には改めて報告したい。
- 【三浦会長】 私が所属している日本在宅医療連合学会は、このような活動報告も受け付けており、非常に先進的な活動であるので学会報告できるのではないかと。
- 【川口委員】 クリニックにて認知症の疑いのある患者を見つけた場合は、どこへ繋がればよいのか。
- 【山崎室長】 認知症の疑いで医療につながっていない場合は、地域包括支援センターへ連絡願いたい。状況に応じ、地域包括支援センターから初期集中支援チームへつなげる。

上記のとおり、令和4年度第1回春日井市地域包括ケア推進協議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和4年12月26日

会 長      三浦 久幸

委 員      若月 剛治